

サステナブル調達マネジメント

▼ 方針 ▼ ガバナンス ▼ 戦略 ▼ リスク管理 ▼ 指標と目標 ▼ 具体的な取り組み

方針

不二製油グループは、2012年に「不二製油CSR調達ガイドライン(初版)」を策定(2016年および2021年に改訂)しました。その後、2016年「責任あるパーム油調達方針」、2018年「責任あるカカオ豆調達方針」において当社の主要原材料の調達方針を定め、2021年には「サプライヤー行動規範」に加え、「責任ある大豆、大豆製品の調達方針」「責任あるシアカーネル調達方針」を策定しました。

サステナブル調達に関わる方針

	方針名	適用範囲	策定年
包括	 サプライヤー行動規範	当社グループに製品・サービスを提供する全てのサプライヤー	2021年
原料別	 責任あるパーム油調達方針	当社グループが購入、取引、加工、販売するあらゆるパーム、パーム核油およびパーム由来原料の全てのサプライヤー	2016年
	 責任あるカカオ豆調達方針	当社グループが購入、取引、加工、販売するあらゆるカカオ豆の全てのサプライヤー	2018年
	 責任ある大豆、大豆製品の調達方針	当社グループが調達する丸大豆、大豆たん白製品の全てのサプライヤー	2021年
	 責任あるシアカーネル調達方針	当社グループが調達するシアカーネルの全てのサプライヤー	2021年
個社別	 CSR調達ガイドライン(第3版)	不二製油(株)のサプライヤー	2012年初版

ガバナンス

GRI:3-3

当社グループにおいて、気候や人権を含む環境・社会課題への対応は、取締役会の諮問機関であるサステナビリティ委員会※1で審議・監督され、取締役会へ答申・報告されています。同委員会は代表取締役社長兼最高経営責任者(CEO)を委員長とし、COO、CFO、事業本部および機能部門の本部長、ESGアドバイザー(社外取締役)で構成しています。ESGマテリアリティ※2・サステナビリティ課題領域である「サステナブル調達」は、各コモディティ別に管掌役を設置し、取り組みを推進しています。

また、同委員会の下部組織である全社重要リスク分科会においても、全社的な視点でサプライチェーン上のリスク・機会に関する議論と管理を行い、経営会議および取締役会へ報告し、承認を受けています(年1回以上)。

※1 ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標>ガバナンス

https://www.fujioil.co.jp/sustainability/sustainability_management/#governance

※2 ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標>指標と目標

https://www.fujioil.co.jp/sustainability/sustainability_management/#index

当社グループを取り巻く社会課題を解決するには、サプライヤーとの連携が不可欠です。当社グループは不二製油グループ憲法[※]のビジョンに「植物性素材でおいしさと健康を追求し、サステナブルな食の未来を共創します。」を掲げています。サステナブルなサプライチェーンの構築はビジョン実現に不可欠であり、継続して推進しています。サプライチェーン上での環境、人権などの社会課題を解決すべく、サプライヤーとの信頼を醸成しながら、環境保全、人権尊重、公正な事業慣行、リスクマネジメントなどに取り組み、サプライヤーと当社グループ、そして社会の三者が持続的に発展することを目指します。

※ 不二製油グループ憲法

<https://www.fujioil.co.jp/about/constitution/>

リスク管理

不二製油グループでは、ESGマテリアリティ・サステナビリティ課題領域「サステナブル調達」に関するリスクと機会を、全社重要リスク項目と関連づけながら、体系的に管理しています。

全社重要リスク

リスク分類「環境・人権」「調達」

https://www.fujioil.co.jp/ir/policies_and_systems/risk/

サプライヤーとのエンゲージメント

グループ全体でのサプライヤーとのエンゲージメント

サプライヤーは当社グループにとって、持続可能な社会の実現のための鍵となるパートナーであり、サプライヤーとの共創によって「サプライヤー」「不二製油グループ」そして「社会」の三者が持続的に発展することを目指しています。この考えは2021年4月に策定した「不二製油グループサプライヤー行動規範」にも明文化しています。事業を展開する全ての国・地域で、サプライヤーに本規範の遵守ならびに該当する当社グループのほかの調達方針への対応を依頼しています。2025年1月末時点で、約79%のサプライヤーから同意をいただきました。今後もしも同意いただいたサプライヤーと歩みを同じくして、持続可能な社会の実現に取り組んでいきます。未回収のサプライヤーには、引き続き働きかけていきます。

日本におけるサプライヤーとのエンゲージメント

前年度に続き2024年度も、サプライヤーを評価するベースとなる「取引先評価表」の整備に努めました。財務状況、品質、価格、納期等の評価はもちろん、過去のアンケート調査で判明したサプライヤー間での差が大きい「リスクマネジメント」と「環境への配慮」を盛り込んで、約70社の現状を確認し、サプライヤー評価に活用しました。

また、2024年1月に策定した「物流の適正化・生産性向上に向けた自主行動計画」に沿って物流業務の効率化・合理化を図る目的で、着荷主として荷待ち時間や荷役作業等にかかる時間の現状と改善点をお取引先様別、取引品目ごとにアンケート調査しました。

344社から回答いただき(回収率96%)、納品が2時間を超えるケースに関しては実態を精査し、恒常的に発生しているケースには改善方法を検討し、一部は納品時間の短縮が図れました。次年度以降は、常時モニタリングできる仕組みを構築し、サプライヤー各社とドライバー不足に対応したより効率的な調達物流を構築していきます。

サステナブル調達コミットメント

GRI:408-1

不二製油グループは、2020年6月にパーム油とカカオ、2021年6月に大豆とシアカーネルのサステナブル調達に関する中長期目標とKPIを策定しました。

原料	調達における社会課題		目指す姿・ 中長期目標	KPI		2024 年度実績	課題解決アプローチ
				2030 年	2025 年		
パーム油	地球環境	気候変動、森林破壊、 泥炭地開発、 生物多様性の喪失	森林破壊ゼロ、 泥炭地開発ゼロ、 搾取ゼロ	農園までのトレーサ ビリティ（TTP ^{※1} ）： 100%	TTP：85%	95%	・農園までのサプライチェーンの把握 ・衛星写真による森林破壊のモニタリング ・サプライチェーン変革プログラムの適用 ・NGO や搾油工場との協働／直接サプライヤーとの エンゲージメントによるサプライチェーンの改善 （環境・人権リスク低減） ・グリーンパス（苦情処理）メカニズムの運用 ・ランドスケープイニシアチブ ^{※3} への参画 ・RSPO ^{※4} 認証油の調達
	人権	強制労働・児童労働、 先住民・地域住民・ 労働者からの搾取		労働環境改善プロ グラム適用率：100% （全直接サブライ ヤー）	労働環境改善プロ グラム適用率： 100%（パルマジュ エディブル オイル （マレーシア） ^{※2} の 全サプライヤー）	83%	
カカオ	地球環境	森林破壊、気候変動に よる生産地への影響、 生物多様性の喪失	森林再生、 児童労働撤廃	植樹 100 万本 ^{※5}	植樹 50 万本	AGRO-MAP 社を パートナーとして コートジボワールに 70,023 本植林 （累計 385,771 本）	・調達先の農園の境界線（ポリゴン）マッピング ・森林の保全と再生 ・児童の保護（CLMRS の推進） ・コミュニティ支援プログラム（ガーナ、コートジボ ワール）の実施
	人権	児童労働、農家の貧困		児童労働撤廃	最悪の形態の児童労働 ^{※6} ゼロ	当社グループの直接 調達サプライチェー ン上の農家グルー プの 100% を CLMRS ^{※7} にてカ バー。	
大豆	地球環境	森林破壊、 生物多様性の喪失	森林破壊ゼロ、 搾取ゼロ	コミュニティレベル までのトレーサビリ ティ確保、または RTRS ^{※8} 認証品もし くは RTRS 認証に 準じたその他認証品 での調達率：100%	第一次集荷場所まで のトレーサビリティ 確保、または RTRS 認証品もしくは RTRS 認証に準じた その他認証品での調 達率：100%	第一次集荷場所まで のトレーサビリティ 確保：92.8%	中国サプライヤーとの直接対話の継続推進
	人権	先住民・地域住民・ 労働者からの搾取					
シアカーネル	地球環境	緑地の消失	森林保全、女性の エンパワーメント 支援	植樹 6,000 本 / 年 ^{※9}	植樹 6,000 本 / 年	7,018 本	・Tebma-Kandu プログラムの実施 ・シアの木の生息域内の緑地保全 ・エネルギー転換による環境負荷低減
	人権	農家の貧困		Tebma-Kandu 協同 組合 ^{※10} からの調達を 含め、地域レベルま でのトレーサビリ ティ：75%	70%	91%	
				Tebma-Kandu プログラムからの シアカーネル 調達比率 ^{※11} ：50%	30% ^{※12}	15%	
				西アフリカでのシア カーネル搾油・分別 比率：100%	100%	100%	
				フジ オイル ガーナ で使用する非化石エ ネルギー ^{※13} 比率（蒸 気発生用）：100%	100%	70%	
				Tebma-Kandu 協 同組合の代替収入の ための、当社グルー プ寄贈倉庫活用比 率：80% ^{※14}	20%	—	

※1 TTP：Traceability To Plantation

※2 パルマジュエディブルオイル（マレーシア）：不二製油（株）の 100% 子会社の油脂製造拠点。

※3 ランドスケープイニシアチブ：特定した地域について、パーム農園に限らず NGO やコミュニティ・政府などのマルチステークホルダーが参画し、地域ごと改善を図るアプローチ。

※4 RSPO：Roundtable on Sustainable Palm Oil（持続可能なパーム油のための円卓会議）。

※5 ささまざまな種類の緑陰樹の苗木を 2021 年から 2030 年までの 10 年間で 100 万本植樹予定。

※6 最悪の形態の児童労働：Worst Forms of Child Labour（WFCL）。ILO（国際労働機関）第 182 号条約「最悪の形態の児童労働の禁止及び撤廃のための即時の行動に関する条約」により、子どもの安全、健康、道徳を害する恐れのある危険有害労働を禁止している。人身取引、債務労働、強制労働、児童買春、および児童ポルノ、犯罪など不正な活動、武力紛争での子どもの使用が含まれる。

※7 CLMRS：Child Labour Monitoring & Remediation System（児童労働監視・是正システム）。

※8 RTRS：Round Table on Responsible Soy Association（責任ある大豆に関する円卓会議）。

※9 主にシアの木の苗木を 2021 年から年間 6,000 本植樹予定。

※10 Tebma-Kandu 協同組合：Tebma-Kandu プログラムの登録協同組合。

※11 KPI を「Tebma-Kandu 協同組合からのシアカーネル直接調達比率」から「Tebma-Kandu プログラムからのシアカーネル調達比率」に変更。Tebma-Kandu プログラムの考え方に基づいて当初から活動している協同組合に加えて、新たに Tebma-Kandu の趣旨に賛同したパートナーからの調達数量を含める。

※12 2021 年、2022 年、2023 年はそれぞれ 10%、10%、15% を KPI に設定。

※13 シアバターを分別した際に得られる副産物であるシアオレインをバイオマス燃料として使用。

※14 地域における価値創造に関する KPI「フジ オイル ガーナの正規雇用の社員数：50% 増加（2017 年比）」は 2022 年度時点で達成したため、それに代わる新たな KPI を 2024 年度から設定。フジ オイル ガーナが寄贈したシアカーネル保管用倉庫のうち、空きスペースやシアシーズン以外の期間を利用して、シア以外の収穫物の保管に活用して収入を生み出している倉庫数の比率。

具体的な取り組み

各原料のサステナブル調達

当社グループの主原料(パーム油、カカオ、大豆)および戦略原料のシアカーネルのサステナブル調達の取り組みの詳細については、以下のURLをご参照ください。

パーム油のサステナブル調達

https://www.fujioil.co.jp/sustainability/palm_oil/

カカオのサステナブル調達

<https://www.fujioil.co.jp/sustainability/cocoa/>

大豆のサステナブル調達

<https://www.fujioil.co.jp/sustainability/soy/>

シアカーネルのサステナブル調達

https://www.fujioil.co.jp/sustainability/she_kernel/

関連資料

ESGデータブック(1.36MB) 